

公報

○内務省達乙第四十七號
明治十年當省乙第七十六號達以後蒙願セシ者ト雖ニ該達
ニ比準スヘキ者ハ特別ナ以テ志願ニ依リ直ニ醫術開業免
狀可致授與候條本年十二月限り履歷書相添可爲願出此旨
相達候事

明治十六年十二月五日
陸軍省達甲第四十二號 警視廳府縣（東京府ヲ除ク）
軍人軍屬ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ地方監獄署ニ交
付ノ者滿刑ノ節歸鄉旅費自今廢止候様此旨相達候事
明治十六年十二月五日 陸軍卿大山巖

第三條　府縣立師範學校ハ管内學齡人園千五百人ニ一
人ノ率ニ當ル以上ノ生徒ヲ養成スヘキモノトス

○明治十六年十一月五日
任海軍大尉 海軍中尉從七位勳六等 森川植叙任

全海軍中隊

全	任海軍大機關士	海軍中機關士從七位	河井時	河井時	河井規矩之左右
全	任海軍大軍醫	海軍中軍醫從七位勳五等	見川忠	見川忠	見川忠
全	任海軍中尉	海軍少尉正八位	佐川晃	佐川晃	佐川晃
全	任海軍中主計	海軍少主計正八位	酒井利	酒井利	酒井利
全	任海軍中機關士	海軍少機關士正八位	岡本忠	岡本忠	岡本忠
全	任海軍中主計	海軍少主計正八位	次吉夫	次吉夫	次吉夫
全	任海軍主計中監	海軍主計少監從六位	金保	金保	金保
全	任海軍少佐	海軍大尉正七位	安原俊	安原俊	安原俊
○明治十六年十二月四日	任海軍主計中監	海軍主計少監從六位	飯車禮	飯車禮	飯車禮
任檢事	岩手縣典獄兼一等屬	直江兼重	近藤邦	近藤邦	近藤邦
			渡邊直	渡邊直	渡邊直
			牧兼	牧兼	牧兼
			奈良真	奈良真	奈良真
			原良志	原良志	原良志
			安原金	安原金	安原金
			田彦	田彦	田彦
			山格	山格	山格
			原次吉	原次吉	原次吉
			吉	吉	吉

ハ頂昔相望ミ、人事ノ繁劇ニシテ邁歩ノ迅速ナル實ニ驚
クニ堪ヘタレバ我々日本人民モ亦其覺悟ナカル可ラズ、
ニテハ某國ニテハ何艘ノ軍艦ヲ新造シタリ然ルニ其隣國ニ
テハ更ニ新式ノ大砲ヲ製シテ暗ニ之ニ備ヘタリ、又某國
ニテノ一半ヲモ併呑シテ更ニ其隣國ニ及ハントセリ糠チ舐
リノ一半ヲモ併呑シテ更ニ其隣國ニ及ハントセリ糠チ舐
テ米ニ及ブハ自然ノ勢我々モ亦袖手安眠ス可ラズト、大
聲疾呼世人ニ注意ヲ與ヘタレニ我輩ノ素心ヲ滿足スルヲ得ズ我
ヲ貰ク能ハザルニヤ未ダ我輩ノ素心ヲ滿足スルヲ得ズ我
輩ハ西洋文明ノ大義ヲ稱道シテ敢テ其聲ヲ吝マズト雖ニ
之ヲ世人ニ傳達スルコヘ唯其耳ヲ假ルノミニシテ實物ヲ
眼前ニ示ス能ハザルガ故ニ百曉干告モ亦其一見ノ効驗ニ
及ハザルヲナラン且ツ又人間ノ感覺ハ近キニ敏ニシテ遠
キニ鈍ク炭團火鉢ヲ頬覆シタルニハ狼狽シテ對岸ノ失火
ニハ驚カズ近クハ安南ニ戰爭アリト聞クモ之ヲ感スルト
ハ隣家ノ喧嘩ニモ及ハザルモノアルガ如シ距離一步ヲ遠
キニ隨テ大小ノ度ヲ變スルヲ常トス其狀ハ恰モ山水畫ノ
如ク近林ハ小ナレニ畫人ハ其割合ヲ大ニシ遠山遙峯ハ大
ナリト雖ニ筆工ハ之ヲ縮小セリ故ニ近キハ大ニシテ遠キ
ハ小ナルガ如クナレニ實物ノ山水ニ就テ其遠山遙峯ニ接
シクスレバ感覺モ一層遲鈍トナリ事實ヲ腦鏡ニ映スルコ遠
近ニ隨テ大小ノ度ヲ變スルヲ常トス其狀ハ恰モ山水畫ノ
如ク近林ハ小ナレニ畫人ハ其割合ヲ大ニシ遠山遙峯ハ大
ナリト雖ニ筆工ハ之ヲ縮小セリ故ニ近キハ大ニシテ遠キ
ハ小ナルガ如クナレニ實物ノ山水ニ就テ其遠山遙峯ニ接
シクスレバ感覺モ一層遲鈍トナリ事實ヲ腦鏡ニ映スルコ遠
近シタラハ高大秀絶固ヨリ一小近林ノ比ニ非ザルヲ發見
ス可シ我々日本人民ハ東洋ノ一隅ニ僻在シテ遠ク西洋ノ
事情ヲ聞ケバコソ其之ヲ感スルノ深切ナル炭團火鉢ヲ頬
覆隣家ノ喧嘩ニモ及ハザルナレ、實地ノ事情ニ接シタラ
ハ其高大宏壯ニ驚キ遇鈍ノ感覺モ一時ニ激シテ又其銳敏
ヲ増シ來リ躍然トシテ喜ビ奮然トシテ怒リ忽テ悲ミ忽テ
笑ヒ喜怒悲笑交々集マリテ遂ニ大ニ感覺シ毗テ裂キ手ニ
唾シテ文明ノ競場ニ一鞭ヲ試ムルノ勇氣ヲ生スルニ至テ
シ、右ノ事實ハ我邦ヨリ西洋ニ渡航シタル人ニ就テ往々
微ス可キコトニテ近頃在米國ノ友人ヨリ得タル畫翰ノ如
キモ亦其一斑ナ知ルニ足レリ書意左ノ如シ

候故、咄、黒奴汝ぢ何ぞ無禮あるぞと小牘はさへり偶焉
共、大人氣あれば其儀に看過致し候小生等當國ふ來
りてより何に就きても驚嘆する傍に又何に就きても憤
懲し海外に在ては兎角不相處あるものと存し乍ら賣
先で我邦の名聲が夙々西洋人の耳に入り東洋に去るも
のあらず知られたらば外國に在る小生等迄も斯る不倫
快はなかる可しと聊ら感激仕候云々」
右ハ尋常ノ文通コテ見聞ノ儘ヲ文飾セズノ寫シ出シタル
モノナレ。日本男兒愛國ノ氣象ハ自カラ其間ニ見ハレ實
際ノ事情ニ接シテ感激シタルハ筆ト口トノ虛影虛聲ニ感
觸シタルトハ大ニ其趣ヲ異ニスルナ見ル可シ、我輩ハ東
洋ニ在テ西洋文明ノ聲影ヲ寫シ、其驚ク可ク喜ブ可キノ
情狀ヲ世人ニ曉告スルヲ解ラズト雖ニ其實勢實狀ニ至テ
ハ、十一、千百、髪端ス可ラズ、サレバ我邦ノ人民モ各其
道ニ由テ海外旅行チ企テ、一人コテモ多ク西洋文明ノ實
物ニ接スルヲ實ニ今日ノ急務ナル可シ、自カラ往テ其實
物ニ接シ之ニ驚テ自國ニ返リ又之ヲ其知已朋輩ニ語ル
ハ、感觸ヲ起スノ度モ亦自ラ深切ナリ一往一返次第ニ外國
ノ實情ニ通スルノ人々増シ來ラバ遠キ西洋ノ事ナリト
テ徒ニ之ヲ看過セザルニ至ラ、聞テ感セズ見テ驚クハ
人間萬事皆然ラザルナシ支那ノ古話コ或人好シテ龍ノ話
ヲ聞キタルガ他日真龍ヲ見ルニ及シテ大ニ之ヲ恐怖シタ
リト云フアリ、今唯西洋ノ文明ヲ語ルヲ聞キテ未タ其
寶物ヲ見ザルモノハ之ニ意ナ留ムルヲ少カラント雖ニ若
シモ海外ニ赴キテ其實物ニ接スルモノアラバ之ヲ恐怖シ
又體ヲ之ヲ親愛スルノ度ハ彼ノ異龍ニ逢フタルニ減セザ
ル可シ、果シテ然ラシハ啻ニ之ヲ恐怖スルノミナラズ
其龍ノ爪牙ヲ防クノ念モ起フシ又コレヲ恐怖セズシテ之
ヲ親愛スレバ其人交ル可シ其文學ア可レ之ヲ敵ニスルモ
之ヲ友ニスルモ親シクニ接シテ後ノ思案ニ附ス可キナ
リ我輩ハ常ニ文明ヲ語リ今後モ亦之ヲ世人ニ曉告スルヲ
解ラザル可シト雖ニ百聞ハ一見ニ若カズ、我ガ日本人民
ハ自ラ進テ海外ニ赴キ西洋文明ノ異龍ヲ見ルニ若カザル
ナリ

月二十一日龍馬

候故、咄、黒奴汝ぢ何ぞ無禮あるぞと小牘はさへり偶焉
共、大人氣あれば其儀に看過致し候小生等當國ふ來
りてより何に就きても驚嘆する傍に又何に就きても憤
懲し海外に在ては兎角不相處あるものと存し乍ら賣
先で我邦の名聲が夙々西洋人の耳に入り東洋に去るも
のあらず知られたらば外國に在る小生等迄も斯る不倫
快はなかる可しと聊ら感激仕候云々」
右ハ尋常ノ文通コテ見聞ノ儘ヲ文飾セズノ寫シ出シタル
モノナレ。日本男兒愛國ノ氣象ハ自カラ其間ニ見ハレ實
際ノ事情ニ接シテ感激シタルハ筆ト口トノ虛影虛聲ニ感
觸シタルトハ大ニ其趣ヲ異ニスルナ見ル可シ、我輩ハ東
洋ニ在テ西洋文明ノ聲影ヲ寫シ、其驚ク可ク喜ブ可キノ
情狀ヲ世人ニ曉告スルヲ解ラズト雖ニ其實勢實狀ニ至テ
ハ、十一、千百、髪端ス可ラズ、サレバ我邦ノ人民モ各其
道ニ由テ海外旅行チ企テ、一人コテモ多ク西洋文明ノ實
物ニ接スルヲ實ニ今日ノ急務ナル可シ、自カラ往テ其實
物ニ接シ之ニ驚テ自國ニ返リ又之ヲ其知已朋輩ニ語ル
ハ、感觸ヲ起スノ度モ亦自ラ深切ナリ一往一返次第ニ外國
ノ實情ニ通スルノ人々増シ來ラバ遠キ西洋ノ事ナリト
テ徒ニ之ヲ看過セザルニ至ラ、聞テ感セズ見テ驚クハ
人間萬事皆然ラザルナシ支那ノ古話コ或人好シテ龍ノ話
ヲ聞キタルガ他日真龍ヲ見ルニ及シテ大ニ之ヲ恐怖シタ
リト云フアリ、今唯西洋ノ文明ヲ語ルヲ聞キテ未タ其
寶物ヲ見ザルモノハ之ニ意ナ留ムルヲ少カラント雖ニ若
シモ海外ニ赴キテ其實物ニ接スルモノアラバ之ヲ恐怖シ
又體ヲ之ヲ親愛スルノ度ハ彼ノ異龍ニ逢フタルニ減セザ
ル可シ、果シテ然ラシハ啻ニ之ヲ恐怖スルノミナラズ
其龍ノ爪牙ヲ防クノ念モ起フシ又コレヲ恐怖セズシテ之
ヲ親愛スレバ其人交ル可シ其文學ア可レ之ヲ敵ニスルモ
之ヲ友ニスルモ親シクニ接シテ後ノ思案ニ附ス可キナ
リ我輩ハ常ニ文明ヲ語リ今後モ亦之ヲ世人ニ曉告スルヲ
解ラザル可シト雖ニ百聞ハ一見ニ若カズ、我ガ日本人民
ハ自ラ進テ海外ニ赴キ西洋文明ノ異龍ヲ見ルニ若カザル
ナリ

卷之三

候故、咄、黒奴汝ぢ何ぞ無禮あるぞと小牘はさへり僕獨
共、大人氣あれば其儀に看過致し候小生等當國ふ來
りてより何に就きても驚嘆する傍に又何に就きても憤
懲し海外に在ては兎角不相處あるものと存し乍ら賣
先で我邦の名聲が夙々西洋人の耳に入り東洋に去るも
のあらず知られたらば外國に在る小生等迄も斯る不倫
快はなかる可しと聊ら感激仕候云々」
右ハ尋常ノ文通コテ見聞ノ儘ヲ文飾セズノ寫シ出シタル
モノナレ。日本男兒愛國ノ氣象ハ自カラ其間ニ見ハレ實
際ノ事情ニ接シテ感激シタルハ筆ト口トノ虛影虛聲ニ感
觸シタルトハ大ニ其趣ヲ異ニスルナ見ル可シ、我輩ハ東
洋ニ在テ西洋文明ノ聲影ヲ寫シ、其驚ク可ク喜ブ可キノ
情狀ヲ世人ニ曉告スルヲ解ラズト雖ニ其實勢實狀ニ至テ
ハ、十一、千百、髪端ス可ラズ、サレバ我邦ノ人民モ各其
道ニ由テ海外旅行チ企テ、一人コテモ多ク西洋文明ノ實
物ニ接スルヲ實ニ今日ノ急務ナル可シ、自カラ往テ其實
物ニ接シ之ニ驚テ自國ニ返リ又之ヲ其知已朋輩ニ語ル
ハ、感觸ヲ起スノ度モ亦自ラ深切ナリ一往一返次第ニ外國
ノ實情ニ通スルノ人々増シ來ラバ遠キ西洋ノ事ナリト
テ徒ニ之ヲ看過セザルニ至ラ、聞テ感セズ見テ驚クハ
人間萬事皆然ラザルナシ支那ノ古話コ或人好ソテ龍ノ話
ヲ聞キタルガ他日真龍ヲ見ルニ及シテ大ニ之ヲ恐怖シタ
リト云フアリ、今唯西洋ノ文明ヲ語ルヲ聞キテ未タ其
寶物ヲ見ザルモノハ之ニ意ナ留ムルヲ少カラント雖ニ若
シモ海外ニ赴キテ其實物ニ接スルモアラバ之ヲ恐怖シ
又體ヲ之ヲ親愛スルノ度ハ彼ノ異龍ニ逢フタルニ減セザ
ル可シ、果シテ然ラシハ啻ニ之ヲ恐怖スルノミナラズ
其龍ノ爪牙ヲ防クノ念モ起フシ又コレヲ恐怖セズシテ之
ヲ親愛スレバ其人交ル可シ其文學ア可レ之ヲ敵ニスルモ
之ヲ友ニスルモ親シクニ接シテ後ノ思案ニ附ス可キナ
リ我輩ハ常ニ文明ヲ語リ今後モ亦之ヲ世人ニ曉告スルヲ
解ラザル可シト雖ニ百聞ハ一見ニ若カズ、我ガ日本人民
ハ自ラ進テ海外ニ赴キ西洋文明ノ異龍ヲ見ルニ若カザル
ナリ